

令和5年10月11日

教職員

各位

大学院生

医学系研究科長

医学獣医学総合研究科長

大学院特別セミナーの開催について（通知）

標記のことにつきまして、下記のとおり開催いたしますのでご出席ください。
なお、大学院生については、当日出欠の確認をしますのご承知おきください。

記

日時： 令和5年12月12日（火） 17時00分～

場所： 宮崎大学医学部講義実習棟 303教室

講師： 中岡 良和（国立循環器病研究センター研究所
血管生理学部 部長）

演題： 「炎症制御による難治性血管病の新しい治療法の開発」

講演内容： 講演者の中岡博士は、炎症性サイトカインの interleukin-6(IL-6)に焦点を当てて、これまで肺高血圧症（PH）と高安動脈炎（TAK）などの難治性血管病を主な研究対象にして基礎研究・臨床研究を、精力的に進められてきた。臨床研究では、TAKに焦点を当てて研究を進められ、ステロイド（GC）抵抗性 TAK 患者治療として、抗 IL-6 受容体抗体 tocilizumab(TCZ)の有効性を示したパイロットスタディから、わが国で薬事承認に至った最新の話をお話し頂く。また、基礎研究においては、特に PHにおける炎症シグナルの役割に注目して研究を進めてこられた。特に、低酸素（Hx）性 PH(HPH)マウスモデルを用いて、IL-6 阻害が HPH 病態を抑制すること、IL-6 が肺組織で Th17 細胞を増加させ、主に Th17 細胞由来の IL-21 が肺のマクロファージを M2 に極性化することで肺動脈平滑筋の増殖を誘導する機序、さらに IL-21 が PAH 病態形成の重症化の要に位置するサイトカインであること、等々、様々な最先端の知見を見いだされてきた。本講演では、このように IL-6 とその関連シグナルの制御に着目することで、難治性血管病の新しい治療法の創出に繋がる可能性について、その臨床及び基礎研究の第一人者の立場から広くお話しいただく予定である。